

障害者週間
特集

「ノーマライゼーション」とは、障害者福祉についての基本的な考え方の一つです。この言葉はノーマル(normal)＝「普通の」から来ていて、働きたいとかスポーツをしたい、旅行へ行きたい、映画を見たいといった日常生活での欲求が、障害のある人もない人も、ごく自然に満たされるような社会こそがノーマルであり、これをめざそうという考え方です。

そうした社会を実現するためには、道路や建物といった施設・設備の改善を進めるのはもちろんのこと、障害あるなしに関わらず、すべての人が心の壁を取っ払って、「人と人、共に生きる」という気持ちでもっともっと交流していくことが大切です。

”共に生きる“ことはすばらしい
ノーマライゼーションを
実現する人たち

車いすダンスで全国優勝

中瀬 朱さん

今年11月の「全日本車椅子ダンス・スポーツ選手権大会」で2年連続優勝、ポーランドで開催された国際大会でも6位入賞を果たした中瀬さん。「車いすダンスを始めたのは2年前。最初にダンスを見たとき、健常者と障害者の間にミゾがなくて、いっしょに演技していることに感動しました。それまでは、人前が出るのが嫌だったんですが、ダンスをしている人々と出会えたし、自分に自信が持てました。」

将来の夢を聞くと、「車いすダンスは、まだまだ新しい技というか、演技の仕方が工夫できる奥の深いものだと思うんです。だから、もっともっと技術を磨いて上達したい。パラリンピック（障害者のオリンピック）の種目に採用されるという話も出ていて、そうなれば、ぜひ出場したいですね。」と笑顔で話してくれました。

ノーマライゼーションを実現する人たち

障害者週間 特集

めざすのは障害のある人もない人も共に自立すること

和歌山グループ声 山本和子さん



「和歌山グループ声」は、昭和45年に山本さんご夫妻と地域の有志5人で発足。小学校の学級新聞の録音テープ制作からスタートし、民話や童話、県民の友など各種新聞等のテープ制作、対面朗読や催し等での会場案内ボランティアなど、この32年間、活動の幅をどんどん広げてきました。

会長の山本さんは、「私たちの活動の基本は、障害のある人もない人も、みんな自立して生活するには何が必要かをよく考えて行動に移し、これを一般に広めていくことにあります。だから視覚障害者の方に『こんな情報がありますよ』と伝えるのは決して“援助”ではなくて、人と人のお付き合いの中で当然のことだと思うんですね。」とキッパリ。「点字版の絵本を制作したのも、視覚障害のあるお母さんが自分の子どもに絵本を読んでもあげたいという、母親としての自然な気持ちを受けてのことです。もちろん絵本に貼り付ける点字は、点字作成に慣れている視覚障害者の方に担当してもらって、いっしょに作ったんです。」



「いま私たちが新しくやろうとしているのが、言葉を知らない0歳児に物語を読んで聞かせる『ブック スタート』という取り組みです。これによって、子どもは心豊かに成長すると言われていたんですよ。」と、まだまだやりたいことが尽きない様子の山本さんでした。

もっと知ってほしい、要約筆記のこと

和歌山要約筆記会 山田精子さん



昨年、発足20周年を迎えた「和歌山要約筆記会」。その中心的メンバーの一人である山田さんは、このボランティア活動を16年間続けてきました。「聴覚障害者とお話をする主な手段としては、手話と筆談があります。でも、大人になってから難聴

になったような場合、手話を習得するのはなかなか難しいんですね。生活に追われて手話を勉強する時間も多くは取れませんし。」「講演会や集会等では、講師や参加者が話す言葉を筆記して、それをOHPという機器を使ってスクリーンに写して見てもらいます。講演会など話が数十分も続くようなときは4人



がOHPのまわりに張り付いて、10分交代で筆記をしています。神経を集中して聞きながら書くという作業は10分位が限度なんです。」と要約筆記の大変さをおしえてくれました。

「他府県では、例えば難聴の方が病院へ行くときに同行して、受付窓口等でのやりとりまで要約筆記で対応しているところもあります。私たちが将来そこまでできればと思いますが、メンバーが足りないのが現状です。会社を退職された人や若い人たちなど、もっと多くの方が私たちの活動に加わってくれることを願っています。」と、期待を込めて話してくれました。

※毎年7～8月頃、県民の友でも要約筆記ボランティアの養成講座の受講者募集のお知らせを掲載しています。

県の障害者自立支援施策

障害者施策を進めるにあたっては、ノーマライゼーションの理念のもと、障害者の自己決定の尊重と社会参加・自立のための支援がより重要となっています。

県では、例えば次のような施策を進めています。

- 各種施設・設備の改善など物理的障壁(バリア)の除去
- キッズサポーター養成事業*や、地域住民との交流事業等による啓発など心理的障壁(バリア)の除去

※キッズサポーター養成事業＝小学高学年生を対象にした講習で、手話や車いす介助、ガイドヘルプ(外出支援)等を体験



- 障害者向けパソコン講習などIT社会への対応
- ホームヘルプ(在宅介護)やガイドヘルプの充実
- グループホームの充実(障害者の一人暮らしに向けた共同生活体験等)
- 小規模作業所など福祉的就労の場の確保 等

問い合わせ

県庁障害福祉課 ☎073(441)2531
各振興局健康福祉部

使う人の身になって車いすを製作

紀州車椅子サービス有限会社
守田昌功さん



守田さんは22歳のとき交通事故で両足が不自由になり、車いすの生活となりました。「それまで勤めていた建設会社から設計事務所に移り、設計の仕事をしていました。その頃、私が入院していた病院から依頼を受けて、私と同じように事故で障害者になった人を見舞いに行っていたんです。現実には車いすの生活をしながら、車の運転をしたり、働いたりしている私の話を聞くことによって、少しで

も元気を取り戻してもらおうということ……。そうこうするうちに、障害者としての自分の経験を生かせる仕事がしたいと思うようになったんです。」

守田さんは、名古屋の車いすメーカーの出張所的な仕事に就いて車いすの知識を蓄えた後、今の会社をつくりました。1面でご紹介した中瀬朱さんがダンスで使用している車いすも、守田さんから購入したものです。「どんな車いすがいいのか、どういう用途に使うのかなど、実際に車いすを使う人ときめ細かな相談をしたうえで、車いすの設計や改良をしています。できるだけ扱いやすい車いすを提供することで、もっと障害者が外に出て、いろんな活動するのに役立てばと思っています。車いすのこと以外でも、同じ障害のある人の身近な相談相手でありたいですね。」

発!!
初!

わかやま

環境保全に取り組む小中高校生が集結&アピール

ジュニア環境サミット開催

県では、学校・家庭・地域における環境保全の取り組みをさらに発展・継続させることを目的に、11月2日、和歌山マリーナシティのわかやま館で、「わかやまジュニア環境サミット」を開催しました。

サミットでは、環境保全活動に取り組む県内の小・中・高校生が一同に集まり、身の回りの環境から地球環境のことまで、みんなで考え、話し合い、そのまとめとして「ジュニア環境アピール」及び「アクションプラン(行動計画)」を採択しました。

サミットに集まった子どもたちに負けないよう、大人も子どもも、みんなで環境にやさしい取り組みを始め、続け、広げましょう。

全体会議

各分科会ごとにまとめた意見を発表し合った後、参加者一人ひとりが環境を守るために自分たちがすべきことを「誓いの葉っぱ」と名付けた用紙に書き込み、それを集めて「誓いの木」を完成させるとともに、「ジュニア環境アピール」と「アクションプラン」を決定しました。



※「誓いの木」は、県庁の県民ロビーで展示しています

分科会

参加した30のグループ・約200人の子どもたちは、まず5つの分科会に分かれてそれぞれの取り組み内容や感想・意見等を発表しました。



紀見小学校(橋本市)の4年生は、「地球救出大作戦〜ごみをなくせ〜」と題し、廃油から石けん、牛乳パックからハガキ、食べ残しからのたい肥を使った花の苗などをつくり、それをフリーマーケットに出してお金ではなくアルミ缶と交換しました。2年前から集めてきた空缶と合わせることで、社会福祉センターへ車いすを寄贈することができました。



日置小学校(日置川町)の6年生は、「大崎クリーン大作戦」と題し、春の遠足のとき地元大崎海岸の道に放置されたゴミの多さに驚き、役場や釣り客、地域の人にも協力を呼びかけてゴミ拾い活動を開始。同時に、現場にゴミの持ち帰りを促す看板を設置したり、釣り関係の雑誌に投書する等の啓発活動も行いました。



美里中学校(美里町)の2年生は、環境汚染対策を考えるうえでの基礎データを得るため、地元貴志川の水性昆虫の種類や分布の様子から川の水質を調べたり、川底の岩や石に付着した泥に着目して、河川での泥や雨水の流入状況の調査、手入れされた森林と手入れされていない森林を比較して、下草の茂り方や腐葉土層の厚さ等の状態を調査しました。



ジュニア環境アピール

私たちの郷土は古くから木の国とよばれ、自然に囲まれた緑豊かなまちです。黒潮洗う海の恵みや、蜚飛ぶ川の恵みを受けて暮らしてきました。この恵まれた自然を守るため私たちは、今できることを実行していかなければなりません。

長い年月をかけて育まれてきた私たちの自然。もし、この豊かな自然環境が失われつつあるとしたら…。一度失われた自然を元に戻すことは、容易なことではなく、計り知れない時間と労力が必要とされるのです。

私たちは、私たち自身も自然の一部なのだということを再認識し、自然を大切にする気持ちを忘れてはいけないと、この「わかやまジュニア環境サミット」を通して感じました。

これからも、身近な自然とうまくつきあっていけるように、そして、私たちが豊かな自然感を持ち続けられるようにと願いながら、一人ひとりが環境のためにできることをこの「誓いの木」にたくし、この木が大きく枝葉を伸ばしていけるよう以下のアクションプランを実行します。

アクションプラン

- ①清掃活動などに一生懸命に取り組んでいく。
- ②ボランティアにも参加してゴミを減らしていく。
- ③空缶などゴミが落ちていたら無視せず拾う。
- ④どんなときでも、大人になってもポイ捨てはしない、させない。
- ⑤川や森にゴミを捨てない。
- ⑥モノの無駄づかいをしない。
- ⑦リユース(モノの再使用)を広めていく。
- ⑧電気の消費を少なくする。
- ⑨買い物袋をできるだけもらわないようにする。
- ⑩ゴミをあまり出さないようにリサイクルを続けていく。
- ⑪アルミ缶集めなどを地域の人に広げる。
- ⑫地球の水を大切にする。水質を汚染しないように生活排水を考える。
- ⑬みんなに地球環境についてわかってもらい、昔のようなきれいな地球になるようにしていく。
- ⑭いろいろな人に環境を守る取り組みを伝え、それを実行するように広めていく。
- ⑮自然に感謝する心を忘れない。
- ⑯美しいふるさとの自然を守っていく。

平成14年11月2日
わかやまジュニア環境サミット
参加者一同

問い合わせ

県庁環境生活総務課 ☎073(441)2674

物は相談！

各界の方から、和歌山発展のためのアドバイスをいただきました。

- 1月** ○第2回和歌山県経済活性化委員会(21日)
① 昨年10月、本県経済活性化のための具体的な産業施策などについて、有識者から意見をいただくために設置しました。3月に当面実施すべき具体策「経済活性化プログラム中間発表」をまとめ、今年度の新規事業に反映させたほか、7月と11月にも委員会を開催し、新年度事業に向け貴重な提言をいただきました。



求む、和歌大将！

「新ふるさと創り」事業推進中。

- 4月** ○木村知事が「緑の雇用事業」推進に向けた恒久対策を農林水産大臣等に提言(3日)
5月 ○関西の企業を対象に、緑の雇用事業説明会を大阪市で開催(8日)
① 木村知事自らが、各企業の人事・労務担当者等に説明をしました。この説明会が縁で、ユニチカ労働組合が組合設立30周年記念事業として、中津村で「緑のプラン」と名付けた森づくりを行うことになり、10月17日、中津村役場で用地所有者と正式に契約を交わしました。
6月 ○古座川町の県ふるさと定住センターで農林業・山村生活体験研修がスタート(28日)
7月 ○1ターン創業支援補助金制度を創設。募集を開始(15日)

- 3月** ○和歌山アドバイザー会議(25日)
① 昨年5月、県の施策全般にわたって有識者からアドバイスをいただくために設置しました。今年の事業にも多くの提言を盛り込むほか、6月と11月に東京会議、9月には和歌山会議を開催し、来年度の事業に向けたアドバイスをいただきました。
4月 ○和歌山県・道づくり懇談会(15日)
① 学識経験者や道路利用者から県内の道路整備に対する意見をいただき、今後の道路計画に反映するために設置しました。6月と7月にも懇談会を開催し、和歌山の実情にあった道づくりなど貴重な提言をいただきました。
7月 ○新ふるさと推進委員会(16日)
① 都市との交流や1ターンの促進・定着などをめざす「新ふるさと創り」の実現に向けて、実践者のアドバイスや協力をいただくために設置しました。10月にも第2回委員会を開催し、来年2月に第3回委員会を開催する予定です。

- 9月** ○高野山で紀伊半島三県森林ボランティア交流大会開催(14～15日)



- 10月** ○衆議院農林水産委員会調査団が緑の雇用事業の調査等で来県。知事と意見交換(20日)
 ○紀州材のキットハウスによる産品販売等の施設「木の薫る店」の設置箇所が野上町など県内7箇所に決定(2日)
 ○全国新聞紙上で「求む、和歌大将」と題した新ふるさと創りの広告を掲載(20日)
① 「働きたい」「住みたい」など予想を超える反響で、和歌山に「ふるさと」を求める声が全国から殺到しました。県庁の担当課は対応に大わらわでした。

物申す！

和歌山県が先頭になって、地方の意見をアピールしました。

- 5月** ○「和歌山の公共事業基準づくり」研究会を発足(29日)
① 和歌山の実情にあった道路整備を検討するために発足。7月26日には、岩手、岐阜、三重、鳥取、高知県とともに、「地方の実情にあった公共事業の推進」に向けたシンポジウムを東京で開催しました。
6月 ○岩手、岐阜、三重、高知県とともに「地球温暖化防止に貢献する森林県連合」を結成。国をあげての森林保全整備を求め、共同アピ

- ール(7日)
① 7月25日、小泉首相に緊急政策提案を行うとともに、10月25日には、国に先んじて取り組んでいる事例をまとめ関係省庁に提案しました。
7月 ○楠原慶応大学教授、奥田日本経団連会長など学界や経済界の方々や岩手、宮城、三重、福岡の各知事とともに地方からの構造改革を唱える「地方分権研究会」を発足(10日)
 ○地方の道路整備促進と道路財源の確保を求める東京集会を開催。国にアピール(26日)
8月 ○岩手、岐阜、三重、鳥取、高知県とともに「これからの高速道路を考える地方委員会」を発足(7日)
① 政府道路関係四公団民営化推進委員会に対し、高速道路の議論を深めるための緊急提言を行

ほかにもいろいろありました！

- 1月** ○那智勝浦町・宇久井漁協で「ふれあい未来づくりトーク」(26日)
① ほかに、打田町(5月)、清水町(7月)、有田市(10月)、美山村(10月)で、木村知事と地元のみなさんが、地場産品や観光資源などについてざっくばらんな意見交換をしました。



- 2月** ○長距離定期フェリー・マリンエクスプレスが那智勝浦港寄港航路を開航(1日)
 ○第1回市町村対抗ジュニア駅伝大会を和歌山市で開催(17日)
3月 ○重症心身障害児施設「南紀福祉センター」(上富田町)がオープン(23日)
 ○人権啓発センター(和歌山市)がオープン(17日)
① 愛称を公募し、「えるふ」に決定(9月12日)
5月 ○手づくりの森・根来山げんきの森(岩出町)がオープン(25日)

2002年はこんな年でした。

早いもので、今年も残すところあと1ヶ月。
 今年の県政をふり返ってみました。

備えあれば憂いなし！

地震対策への気運が盛り上がってきました。

- 4月** ○東南海・南海地震等に備えて、県と市町村が一体となった地震対策を図るため、和歌山県地震対策協議会を設立(24日)
5月 ○木村知事が政府与党3幹事長に地震対策に関する新法制定を要望(17日)
7月 ○「東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」が成立(19日)
① 異例の早さで法律が成立。国をあげての防災対策が行われることになりました。
 ○三重、大阪、高知と共同で「東南海・南海地震対策促進集会」を東京で開催(31日)
9月 ○和歌山県が国の津波避難計画策定のモデル県に選定(20日)
① 湯浅、広川、太地がモデルとなり、各町で津波避難計画が策定される予定です。
10月 ○南海道地震を想定した県防災総合訓練を新宮市で実施。1,500人が参加(20日)



- 11月** ○東南海・南海地震を想定して、沿岸の21市町村で津波避難訓練を実施。12,500人が参加し、紀伊半島三県の防災体制のチェックも行われました(13日)

うとともに、9月には、これからの高速道路の在り方に関する共同声明を発表しました。



- 9月** ○道路関係四公団民営化推進委員会「1日委員会in大阪」に木村知事が出席(27日)
① 地方の代表として、高速道路ネットワークの必要性などについて熱く語りました。
11月 ○岩手、宮城、三重、鳥取、高知県とともに地方分権改革に対する緊急提言を発表(7日)

- 7月** ○NPOサポートセンター(和歌山市)がオープン(14日)
 ○県立医大附属病院が県内で初めて非血縁者間の骨髄移植・採取施設に認定(18日)
 ○新漁業取締船「みさき」が完成(31日)
 ○IT総合センター(仮称・田辺市)が2004年オープンをめざし着工(8日)
 ○智辯学園和歌山高等学校が第84回全国高校野球選手権大会で見事準優勝(22日)
 ○和歌山の玄関口、JR和歌山駅西口広場が完成(5日)
11月 ○ふれあい人権フェスタ2002を和歌山市で開催(9～10日)

千客万来！人物編

国内外からたくさんの方が来県されました。

- 1月** ○王 貞治さん(福岡ダイエーホークス監督)が世界少年野球推進財団理事長として世界少年野球和歌山大会への協力依頼に(22日)
① 8月3～11日、21の国と地域から405人の子どもたちが参加して、有田市、御坊市、田辺市、上富田町、新宮市で和歌山大会が行われました。会場では、和歌山出身の東尾修さんをはじめ、稲尾和久さんや村田兆治さんなど往年の名選手が熱心に子どもたちの指導にあたっていました。
2月 ○俳人の黛まどかさんが南部梅林で梅見吟行会を開催。1000句の俳句集まる(11日)
3月 ○中国山東省友好代表团が来県(6日)
① 山東省と和歌山県は昭和59年に友好提携をしています。他にも3月25日に山東大学学術交流団が、5月15日には山東省観光代表团が来られました。
 ○米国フロリダ州知事夫人コルンバ・ブッシュさんが和歌山市、田辺市でファーストレディプロジェクト交流絵画展開催のため来県(17日)
① フロリダ州と和歌山県は平成7年に姉妹提携をしています。ちなみに、州知事のジェブ・ブッシュさんのお兄さんは、あのブッシュ大統領だそうです。

- 4月** ○タイ王国から農業研修生4人が来県(19日)
 11月まで岩出町、橋本市、金屋町、下津町の農家で研修
 ○秋篠宮殿下、同妃殿下ご来県(26～27日)



- ①** 全日本花いっぱい和歌山大会臨席のほか、青洲の里や県立紀伊コスモス養護学校、県立自然博物館なども視察されました。今回で、殿下は6回目、妃殿下は5回目の来県でした。
5月 ○白浜町で国際ビリヤード選手権「IBC NANKI CLASSIC」開催。ベスト64人が熱戦(2日)
 ○本宮町で紀伊半島知事会議開催。世界遺産登録の推進などを確認(9日)
 ○ワールドカップサッカー・デンマーク代表チームがキャンプ。一次リーグ準備キャンプ(20～27日) 決勝トーナメントキャンプ(6月12～17日)
① 今年一番盛り上がったといえば、やっぱりこれ。練習が行われた紀三井寺競技場には、老若男女を問わず練習風景をひと目見ようと、多い日には4,000人にも達するなど、連日多くのファンで賑わいました。
 26日の国際Aマッチ・チェルニシア戦は20,000人を超える盛況でした。
① ワールドカップで大活躍のトマソン選手は、サッカー専門誌のインタビューで、「和歌山県の歓迎ぶりには驚いた。地元コペンハーゲンでも味わったことがないくらい感動した」なんてうれしいコメント！

- ①** このキャンプ期間中、日の岬沖で日本の沈没船の乗組員を助けようとして殉難したクヌッセン機関長の甥と姪の方々も来られました。(5月22日)
① このキャンプが縁で、8月の世界少年野球和歌山大会にデンマークの子どもたちが参加、10月には、デンマーク体操のナショナルチームが日本公演の合間をぬって和歌山市で特別公演、更に11月には、関西空港のPRを兼ねて木村知事を団長に47人の観光ミッション団がデンマークを訪問しました。
6月 ○全国へうなぎ釣り選手権大会がへら竿生産日本一の橋本市で開催。全国から600人の太公望が集結(1～2日)
7月 ○和歌山出身芸能県人会(会長：桂文福さん)が県内の福祉施設を慰問(16日)
 ○ボーイスカウトアメリカ連盟ロサンゼルス379隊が県内のボーイスカウトと交流(31日)
8月 ○千葉県銚子市、勝浦市の中学生が醤油がとりもつ縁で和歌山の中学生と交流・体験(21～24日)
9月 ○「東南アジア青年の船」参加10カ国の青年が県内でホームステイ(13～15日)
 ○フランス・ビレネーオリアンタル県観光局一行が来県(30日～10月1日)
① ビレネーオリアンタル県と和歌山県は平成5年に友好提携をしています。
11月 ○高野山金剛峯寺で近畿ブロック知事会議開催「国民体育大会の改革提案や地球温暖化防止対策に関するアピール」などを採択(8日)



千客万来！企業誘致編

たくさんの企業に和歌山の良さが認められました。

- 3月** ○昨年7月に田辺市に進出した(株)エスアールアイが、活動の拠点を白浜町の民間企業所有の旧保養所に増設。「IHS構想」適用第1号となる(25日)
5月 ○和歌山リサーチラボ(海南市)にスタートアップ・オフィスを増設・入居者募集(13日)
① 競争率3倍の大人気でした。11月には橋本市にも開設し、来年3月にも新宮市に開設予定(入居者募集中)



- 7月** ○大手スーパーのイトーヨーカ堂のバイヤーが県内繊維製品に着目、商談のため来県。県内繊維関係者が自社繊維製品をPR(25日)
① 「まるごと和歌山物産展」を東京のイトーヨーカ堂木場で開催(11月27日～12月2日)
 ○県と市、県土地開発公社はカゴメ(株)とコスモパーク加太へのアジア最大級の大規模温室生鮮トマト菜園の建設に向けた「食と緑の工場特区研究会」の発足を発表(30日)
8月 ○(株)アスクソフテクノロジーが白浜町にコンピュータソフトウェア開発センター新設で協定締結。「IHS構想」適用第2号となる(8日)

お国自慢！

国内外で和歌山を大々的にPRしました。

- 2月** ○大阪の旅行エージェント等を招待して、観光情報説明会・懇談会開催(12日)
 ○東京・銀座で「紀伊山地の霊場と参詣道」展を開催。世界遺産登録をPR(21日～3月13日)
① 10月14日に田辺市で世界遺産登録推進三県リレーフォーラムを開催しました。
3月 ○名古屋で「やっぱりほんまもん和歌山 観光の集い」開催。中京圏のマスコミ、旅行エージェント等に、木村知事と関係市町村長がトップセールスを展開(1日)
① 11月5日にも、東京のマスコミ、旅行エージェントのほか、交通関係事業者も交えた和歌

山県観光プロモーション会議を開催。木村知事が和歌山の世界遺産登録や体験型観光など、和歌山の魅力をアピールしました。

- 5月** ○「紀州ほんまもん観光展・物産展」を東京・銀座で開催(7～13日)
 ○韓国MBC(文化放送)がT.V番組制作のため県内を取材(7～10日)
① 7～11月にかけて、毎月のように韓国や台湾、香港等のマスコミ19社が続々と取材に訪れ、各国で和歌山県の魅力が紹介されました。
7月 ○堺市でわかやま農林水産物ロケーション・アンテナショッピングイベント「紀州夢市」開催(17～19日)
① 10月20日、神戸市でも2回目を開催。
9月 ○中国山東省で和歌山県文化観光交流団が観光PR(19～23日)

- 11月** ○物産展「紀州旬の市」を東京・銀座で開催(6～11日)



- ①** 物産展開催を前に、10月28日には、落語家の桂三枝さんふんする紀伊国屋文左衛門が東京・銀座数寄屋橋で紀州の特産品が入った「紀州夢袋」を配布して、県産農林水産物のPRを行いました。
 ○仙台市で和歌山観光展開催(8日～) 15日から広島で。今後全国4都市で開催予定
 ○紀州雑賀鉄砲衆とゆかりのある韓国「沙也可の里」にウメ、カキの木を植樹(10日)
 ○「ほんまもん！紀州の産品フェア」を和歌山マリーナシティで開催(23～24日)

時…期日・時間 場…場所・会場 定…定員
 対…対象・資格 費…費用 申…申込・応募方法
 問…問い合わせ 抽…希望者多数の場合抽選

和歌山県のホームページは <http://www.wakayama.go.jp/>
 県庁・県教育委員会への郵便は 〒640-8585 (県庁専用郵便番号、住所記入不要) ○○○課であ
 電話は ☎073(432)4111



募集

県立医科大学臨床研修医

対 平成15年医師・歯科医師免許取得見込者
 定 60人
 申 出願書類を12月27日までに医大総務課
 ＊2年目編入制度あり
 問 申込先☎073(441)0711

放送大学学生

テレビ・ラジオで学ぶ正規の大学で、入学試験はありません。
 4月入学生を募集。
 種類 ①全科履修生＝大学卒業(学士〈教養〉)をめざす
 ②選科履修生＝1年間在学
 ③科目履修生＝1学期間(6ヶ月)在学
 ④修士科目生＝大学院に1学期間(6ヶ月)在学
 対 ①④18歳以上 ②③15歳以上
 問 放送大学和歌山学習センター
 ☎073(431)0360

病気の子どもを地域で支えるシンポジウム

小児の難病等長期療養児に関わる課題や支援体制づくりについて考える基調講演とパネルディスカッション
 時・場 12月22日(日)＝那智勝浦町福祉健康センター
 12月23日(祝)＝和歌山マリーナシティわかやま館
 ＊いずれも13:00～16:00
 ＊保育ルームあり(要事前申込)
 申・問 県子ども保健福祉相談センター☎073(445)0520

交通安全年間スローガン

応募区分 一般の部、小・中学生の部、65歳以上の部
 応募 ハガキ又はFAX、Eメールに応募区分、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、職業(会社名、学校名・学年)、電話番号を記入し、1月15日までに県庁県民生活課
 FAX073(433)1771

Eメール e0313001@office.wakayama.go.jp

りいぶるフェスタ in ひだか写真コンテスト作品

テーマ「男女共生・男女平等」
 対 県内在住又は通勤・通学の方
 規格 四つ切り(カラー・モノクロ不問)3点以内、ワイド版・額装・パネル貼り加工は不可
 ＊出品者本人が撮影、未発表のものに限る
 応募 所定の出品票に必要事項記入のうえ、写真の裏に貼付して、1月17日までに日高振興局県民行政部総務課〒644-0011御坊市湯川町財部651☎0738(24)2904又は県男女共生社会推進センター“りいぶる”〒640-8319和歌山市手平2-1-2☎073(435)5245(郵送可)
 問 応募先



くらしとおかね体験作文

テーマ ①金融資産の運用、管理
 ②生活設計と家計運営
 ③子どもとおかね

対 昭和62年4月1日以前に生まれた方
 規格 A4判横置き、縦書、右上つづり、2,000字程度
 申 テーマ、題名、氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号、職業、年齢、性別を記入し、2月20日までに金融広報中央委員会作文係〒103-8660東京都中央区日本橋本石町2-1-1
 問 申込先☎03(3277)2579

新宮市SOHOセンター入居者

起業家・ベンチャーを支援するための情報通信環境が整った低料金の賃貸事務所
 場 新宮市センタービル
 対 創業しようとする方、創業して5年未満の方等
 定 4室
 申 12月27日までに所定の用紙

を持参又は簡易書留郵便で新宮市役所商工観光課〒647-8555新宮市春日1-1
 問 申込先☎0735(23)3333

ファミリー・サポート・センター会員

仕事と育児の両立を支援する会員組織
 対 育児の援助を受けたい方又は育児の援助を行いたい方
 申 和歌山市ファミリー・サポート・センター☎073(424)3770
 田辺市ファミリー・サポート・センター「きっずぱーく」☎0739(26)5486
 問 申込先又は県庁労政能力開発課



ドメスティック・バイオレンス(DV)について

DV＝夫や恋人など親しい関係にある男性から女性に対してふるわれる暴力。

以前はプライベートな問題、夫婦げんかなどと問題にされませんでした。が、昨年10月に施行された「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(いわゆるDV防止法)」では、明確に『犯罪』であると規定されています。

DVは、人間の尊厳にかかわる重大な人権侵害なのです。

暴力の具体例

身体的暴力(なぐる・ける等)、性的暴力(セックスを強要する、避妊を拒否する等)、精神的暴力(ののしる、脅す、大事にしているものを壊す等)、経済的暴力(外へ仕事に行かせない、生活費を入れない等)、社会的暴力(外出を制限する、盗聴する等)などがあります。

まず相談しましょう

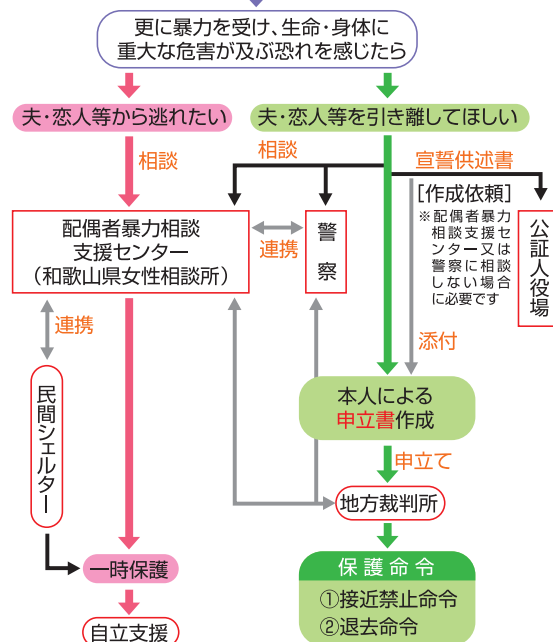
暴力の事実を第三者に知ってもらうのはとても大切なことです。話を聞いてもらうだけで心が軽くなったり、気持ちが整理できたり、また、いろんな情報をおしえてもらえることもあります。

相談窓口のある主な公的機関

- 県女性相談所(配偶者暴力相談支援センター)
☎073(445)0793
 - 県警察本部警察相談課 ☎073(432)0110
 - 県男女共生社会推進センター“りいぶる”
☎073(435)5246
 - 各振興局健康推進課
- ※ただし、緊急の場合は警察110番へ

DV防止法による救済

まず、最寄りの相談機関に相談



※DV防止法は、女性から男性への暴力の場合も適用されます

県工業技術センター

刃物を使わずに柿の皮をむく新技術を開発！

県工業技術センターは、大量の柿の皮を刃物を使わずにむくことができる新技術の開発に成功しました。その技術によれば、酵素を含んだ水溶液に柿を一定時間漬けておき、軽く水洗いするだけで果皮を取り除くことができます。もちろん使用する酵素は、既に安全性が確認され、食品加工等に広く用いられているものです。特別な装置を必要としないため、地域の農産物加工場や中小規模の食品工場などにも導入でき、また、干し柿やあんぼ柿等の製造の効率化をはじめ、皮をむいた柿をカットフルーツとして流通させるなど新たな商品を生み出すことも可能になります。



今後、生産者や地域の食品加工業者と共に実用化を図ることにより、生産量日本一を誇る和歌山の柿産地の活性化につながるものと期待を集めています。

語り継ごう たゆまぬ努力で 四島(しま)返還

北方領土返還要求パネル展

- 12/13～19 和歌山マリーナシティわかやま館
- 1/8～13 ユビアオークワ湯浅店
- 1/28～2/3 オークワミレニアシティ岩出店
- 2/7 貴志川町かがやきホール
- 2/13～18 ペアシティオークワ新宮店
- 2/20～25 オーシティ田辺店



問 県庁広報室

知ってください 検察審査会

犯罪の被害者等が検察官の不起訴処分に納得できないとき、検察審査会に申し立てができます。審査会では、選挙権のある国民の中からくじで選ばれた11人の審査員が処分の善し悪しを慎重に審査し、その結果を参考に検察官が事件を再検討します。

問 検察審査会事務局☎073(422)4191

「労災かくし」は犯罪です！

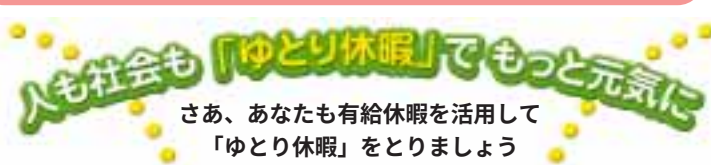
事業所等で労働災害が発生した場合、所轄の労働基準監督署に「労働者死傷病報告」を提出しなければなりません。

問 和歌山労働局☎073(422)2172

工業統計調査にご協力を

全国の製造業の事業所を対象として、統計調査が実施されます。調査員がお伺いした際はご協力ください。

問 県庁統計課



12月	1 日	2 月	3 火	4 水	5 木	6 金	7 土	8 日	9 月	10 火	11 水	12 木	13 金	14 土	15 日	16 月	17 火	18 水	19 木	20 金	21 土	22 日	23 月	24 火	25 水	26 木	27 金	28 土	29 日	30 月	31 火
1月	1 水	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	17 金	18 土	19 日	20 月	21 火	22 水	23 木	24 金	25 土	26 日	27 月	28 火	29 水	30 木	31 金



融資など

勤労者子育て・介護支援助成
育児や介護支援モデル制度等を導入している県内の中小企業事業主に助成金を交付(各200,000円)
＊今年度限り

導入制度 短時間勤務制度、フレックスタイム制度、始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ制度など

申 12月末日まで

問 県庁労政能力開発課



試験

(福)和歌山県福祉事業団看護師
時 12月22日(日)
場 和歌山ビッグ愛(和歌山市)
対 有資格者(取得見込者を含む)
定 2人程度
勤務施設 南紀福祉センター他
願書配布 同事業団
申 12月16日までに同事業団総務課〒640-8319和歌山市手平2-1-2に持参又は郵送
問 申込先☎073(435)5234

危険物取扱者
種類 甲種、乙種、丙種
時 2月16日(日)
場 和歌山市、田辺市、新宮市
願書配布 (財)消防試験研究センター和歌山県支部、県庁消防防災課、各振興局地域行政課、各消防本部
申 12月16～19日に(財)消防試験研究センター和歌山県支部〒640-8249和歌山市雑賀屋町51第2ビル2階に持参又は郵送
問 申込先☎073(425)3369



ごあんない

WAW FESTA(わうフェスタ)
動物とのふれあい、動物愛護教室、ぬり絵、クイズなど
時 12月14日(土)・15日(日) 10:00～17:00
場 県動物愛護センター(野上町)
問 会場☎073(489)6500

“紀淡海峡”子ども交流フェスタ
南中ソーランや阿波踊りなど、和歌山と徳島の子ども達による踊りの競演やパネル展など
時 12月22日(日) 11:30～
場 和歌山マリーナシティ
問 県庁総合交通政策課

医療関係者の届出
すべての医師、歯科医師及び薬剤師並びに業務に従事する保健師、助産師、看護師、准看護師、歯科衛生士、歯科技工士の方は業務従事者届を1月15日までに管轄保健所に提出してください。
問 各保健所、県庁医務課

福祉のまちづくり施設アドバイザーの派遣
住宅や店舗などのバリアフリー改造について、建築士が無料で出張相談に応じます。
＊住宅については、介護保険法等による住宅改修認定を受ける方に限ります。
申・問 県建築士会☎073(423)2562 又は県庁都市政策課

母性健康管理電話相談
妊産婦のための母性健康管理について、事業主や働く女性を対象に、産婦人科医が無料で電話相談に応じます。
時 来年3月までの毎週火曜日 9:00～12:00
申 ☎0739(22)0019
問 県庁健康対策課

社内コミュニケーション診断
コンピュータにより、会社組織上の問題点を科学的、客観的に分析します。機密厳守。診断は無料。
申・問 県庁労政能力開発課

市町村合併ニュース

県内各地で、合併に向けた取り組みが活発になってきました。

- 法律に基づく橋本市・かつらぎ町・高野口町・九度山町・高野町・花園村合併協議会が設置されました。(10月4日)
- 本宮町が田辺広域合併協議会に加入しました。(10月4日)
- 和歌山県市町村合併支援プランができました。(10月30日)
合併による新しいまちづくり等を支援するために、合併重点支援地域及び合併市町村に適用する優遇措置等をまとめた支援プランを策定しました。
このプランには、道路や下水道といった社会資本整備や生活関連基盤への重点投資・優先採択など全55項目にわたる県の支援施策を盛り込んでいます。
- 合併重点支援地域を新たに指定しました。(10月30日)
・ 合併重点支援地域として串本町、古座町及び古座川町の地域を指定しました。
・ 田辺市、龍神村、南部川村、南部町、白浜町、中辺路町、大塔村、上富田町、日置川町及びすさみ町の合併重点支援地域に本宮町を追加指定しました。
- 串本町古座町古座川町任意合併協議会が設置されました。(11月1日)
- 法律に基づく南部町・南部川村合併協議会が設置されました。(11月12日)

県内における取り組み状況(11月12日時点)

法定合併協議会

田辺広域合併協議会

平成14年7月23日設置

※田辺市、龍神村、中辺路町、大塔村、上富田町、日置川町、すさみ町、本宮町

橋本市・かつらぎ町・高野口町・九度山町・高野町・花園村合併協議会

平成14年10月4日設置

南部町・南部川村合併協議会

平成14年11月12日設置

任意合併協議会

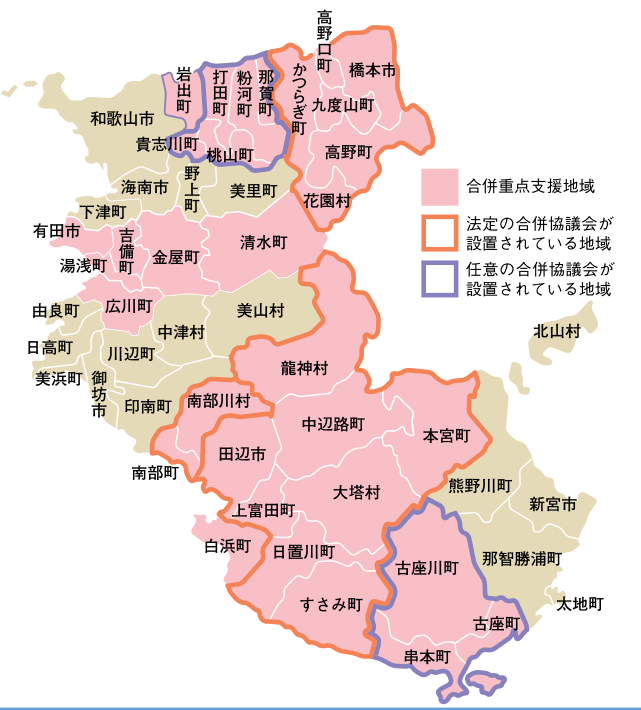
市町村合併検討協議会

平成14年4月1日設置

※打田町、粉河町、那賀町、桃山町、貴志川町(岩出町はオブザーバー参加)

串本町古座町古座川町任意合併協議会

平成14年11月1日設置



問 県庁市町村課合併推進室

ふるさと名人「紀の人」賞

新しい時代のふるさとづくりを進めるため、地域の特色を生かし、さまざまな分野で頑張っている方々を「ふるさと名人」として表彰し、「紀の人」賞を贈呈しました。(敬称略)

青木伸二	(高野口町)	刷毛づくり
井澤武二	(野上町)	たわしづくり
檜尾守生	(貴志川町)	レーシングメカニック
小出勝彦	(太地町)	土鈴づくり
小切間喜久子	(田辺市)	語り部
堺 隆夫	(美山村)	グリーンキーパー
田中準三	(粉河町)	左官工
劇団 華岡青洲	(那賀町)	地域づくり
羽山直幸	(由良町)	表具師
三嶋お米	(高野町)	念珠づくり
三谷 弘	(上富田町)	人形づくり
森 清	(日置川町)	鮎つり
山下正次	(打田町)	椎茸づくり

11月18日 県庁にて表彰式を行いました。

問 県庁秘書課

始めます。「出張！県政おはなし講座」

来年1月から、県庁職員が直接みなさんの地域にお伺いし、県が取り組んでいる重要施策などについて説明する「出張講座」を始めます。
医療・福祉、環境、産業をはじめ、「新ふるさと創り・緑の雇用事業」や「東南海・南海地震」など、100を超える講座テーマを用意しました。
お気軽にお問い合わせください。

対 象 15人以上のグループ(県内在住、通勤・通学の方)

日 時 原則として希望日(土日祝日、夜間可)

費 用 無料(但し、会場の手配やそれにかかる費用はご負担願います。)

その他 営利や政治、宗教を目的とする場合はお受けできません。また、苦情や要望のみをお受けする場ではありませんのでご理解をお願いします。

申込み 実施予定日の1ヶ月前までに、所定の申込書を郵送、FAX又はEメールで県庁政策審議室まで

問合せ ☎073(441)2075 FAX 073(431)0462

詳細は、ホームページで紹介しています。
<http://www.wakayama.go.jp/prefg/000600/shuttyou>

年末の交通事故防止県民運動

12月1～10日
飲酒運転の徹底追放
夕暮れ時の早めのヘッドライト点灯

催し

県立近代美術館	☎073(436)8690
■美術百科「この人のこの一点」の巻	4月6日まで
県立博物館	☎073(436)8670
■きのくにの国宝	12月23日まで
紀伊風土記の丘	☎073(471)6123
■企画展「昔の暮らし」	12月5日～3月21日
50年～100年前の生活用具約150点を紹介	
■子ども歴史クラブ	12月14日(土)13:00～
民家と昔の暮らしを調べる(小学生対象)	
県植物公園緑花センター	☎0736(62)4029
■七草粥を食べよう(事前申込必要)	1月12日(日)

お気軽にどうぞ

交通事故相談 ☎073(441)2359

【常設相談】月～金曜日(東牟婁振興局☎0735(22)8551 水曜日を除く) 場所/県庁交通事故相談所、東牟婁振興局
 【弁護士による相談】●県庁交通事故相談所 12月24日(火)、1月6日(月) 受付/13:00～14:00 ●東牟婁振興局 12月20日(金)、1月10日(金) 受付/正午まで(電話予約必要)
 【巡回相談】●伊都振興局 12月25日(水) ●西牟婁振興局 1月8日(水) 受付/11:00～15:00

県民相談 ☎073(441)2356

【常設相談】月～金曜日 場所/県庁県民相談室
 【弁護士による相談】県庁県民相談室 ※各先着16人
 ●12月17日(火)<☎予約12/9～> ●12月27日(金)<☎予約12/18～> ●1月14日(火)<☎予約1/6～>
 【移動相談】●1月16日(木)金屋町・文化保健センター<☎予約12/26～有田振興局0737(64)1255>
 ●1月23日(木)海南市・住民センター<☎予約1/9～海草振興局073(441)3352> ●1月28日(火)美山村・山村開発センター<☎予約1/14～日高振興局0738(24)2936>
 ※各先着10人(予約開始日に注意)

高齢者相談 ☎073(435)5212

【常設相談】月～金曜日
 【専門相談】医療、リハビリ、保険・年金、税金、栄養、住宅、法律、健康 ※日時はお問い合わせください
 【弁護士による相談】12月20日(金)(電話予約必要)
 場所/県高齢者総合相談センター(和歌山ビッグ愛7階)

労働相談 ☎073(436)0735

【常設相談】月～金曜日 10:00～16:00(水曜は20:00) 土曜日 10:00～14:00
 【社会保険労務士による労働相談】
 月2回 14:00～16:00(相談日は要問合せ)
 場所/県労働情報センター(県労働センター1階)

12月は骨髓バンク推進月間

骨髓バンクに是非登録してください。
 全国のドナー登録者数は現在約16万人。30万人になれば80%の患者さんにドナーが見いだせます。
 あなたの善意をお待ちしています。
 問 県庁薬務課、各県立保健所

県政がわかる、納得、身近になる

県政広報番組紹介

●テレビ

テレビ和歌山(WTV)

きのくに21 日曜日 9:30・22:00(再)

*県の施策や地域の特集(30分番組)

県民チャンネル 月～金曜日 20:55(火曜日21:54)

*県からのお知らせ(5分番組)

県政フラッシュ 金曜日18:00のニュース番組内

*1週間の県政の動きを紹介(5分番組)

文字放送 テレモ西日本511#

紀の国・和歌山情報 毎日5:00～24:00

●ラジオ 和歌山放送(WBS)

県民マイク 土曜日 14:30

*県の施策や地域の特集(20分番組)

県庁だより 毎日11:40・18:00(再)

*県からのお知らせ(10分番組)

わがやま..
北南NEWS

県植物公園緑花センター
入場者500万人突破!

恵和株式会社が工場進出 県内初の産・学協同ベンチャー会社発足

県経済の活性化に一役

加工紙・加工フィルムの開発・製造・販売を行う恵和株式会社(本社:大阪市)が、液晶用の部材や高機能プラスチックフィルムを生産する工場の印南町立地を決め、県、印南町との三者で進出協定を結びました。(写真)新工場は来年8月の操業開始、3年間で25名(初年度は15名)の雇用を予定しています。

また、11月には、近畿大学と民間企業が共同で出資するジーンコントロール株式会社が海南市で発足しました。新会社は、大学の研究者や大学生等を対象とする県の支援を受けた初のベンチャー企業で、先端医療や新薬の研究開発を支援するための遺伝子操作をした研究用マウスの生産・販売、遺伝子解析の受託等を行います。将来は、本県のバイオ産業の一翼を担う企業に成長することが期待されています。



産地直送旬のものてんこ盛り!

わかやま館フェアふるさと祭



和歌山マリーナシティのわかやま館1階に、県産土産品の販売店があるのをご存知ですか? 「いちばん館」という名前のこの店では、県内の各産地と連携して、農産物や地域の名物等を集めた催し『ふるさと祭』を定期的に開催することになりました。

第1回ふるさと祭は、11月2～4日、金屋町の「明恵ふるさと館」と合同で開催し、みかん、柿、キウイといった旬の農産物をはじめ、地域自慢のパンや天ぷら等の販売のほか、もちつき大会など盛りだくさんの内容で大いに賑わいました。

自然博物館

野鳥観察会

冬鳥のカモ類を観察

日程 1月26日

13:00～15:00

会場 那賀町・麻生津橋周辺

対象 小学生以上50人 (抽)

費用 100円(傷害保険料等)

申込 往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、1月11日までに自然博物館「野鳥観察会」係

水槽写真教室

水槽での写真撮影に必要な基礎技術を学ぶ

日程 1月17・18・19日のうち1日 10:00～15:30

会場 自然博物館

対象 一眼レフカメラを持参でき、操作ができる方

各日20人(計60人) (抽)

費用 入館料

申込 往復ハガキに参加希望日、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し1月3日までに会場「水槽写真教室」係

申込・問合せ 県立自然博物館
〒642-0001 海南市船尾370-1
☎073(483)1777

青少年の家

ドンとこい和太鼓

初心者から初級者向きの和太鼓の講習

日程 1月18～19日(1泊2日)

会場 紀北青少年の家(かつらぎ町)

対象 小学5年生～一般25人 (抽)

費用 2,900～3,500円

申込 電話、FAX、ハガキで12月25日までに会場

白崎ネイチャークラブ・冬

フィールドゲームや炭焼き、石けん作りなど

日程 1月25～26日(1泊2日)

会場 白崎青少年の家(由良町)

対象 小学4年生～中学生40人 (抽)

費用 3,000円

申込 電話、FAX、ハガキで1月11日までに会場

生CMのチカラ～PR大作戦～

品物の紹介を通じて、自分の思いが人に伝わる楽しさを実感

日程 1月25～26日(1泊2日)

会場 潮岬青少年の家(串本町)

対象 中学生(3～5人グループ)

10グループ (抽)

費用 2,800円

申込 電話、FAX、ハガキで1月12日までに会場

陶芸 信楽焼菓子鉢づくり

日程 1月26日

会場 紀北青少年の家(かつらぎ町)

対象 小学4年生～一般40人 (抽)

費用 1,500円

申込 電話、FAX、ハガキで1月13日までに会場

FAX、ハガキで
申し込み場合

参加者全員の住所、氏名、年齢(学年)、電話番号、保護者名、希望講座名を記入してください。

申込・問合せ先

紀北青少年の家 〒649-7112 かつらぎ町中飯降1317-3
☎0736(22)5530 FAX0736(22)5531
白崎青少年の家 〒649-1123 由良町大引961-1
☎0738(65)2351 FAX0738(65)2352
潮岬青少年の家 〒649-3502 串本町潮岬669
☎0735(62)6045 FAX0735(62)0182

